

看護学士課程4年生を対象としたキャリア教育の取り組み

京都府立医科大学

眞鍋 えみ子, 岡山 寧子, 倉ヶ市絵美佳, 橋元春美

【目的】

本学では 2008 年から看護実践能力の育成と卒後のキャリアアップ支援を目的として 1) 卒後経年的な看護実践能力の調査、2) 看護実践能力評価手法の確立、3) キャリアディベロップメントに取り組み基礎教育のあり方を検討している。その一環として、将来設計、キャリア、職業観と専門能力の形成を目的に 4 年生を対象に行ったキャリア教育の内容と今後の課題について報告する。

【方法】

4 年生 88 名のうち希望者を対象とした。

教育の概要：キャリア志向学習と附属病院におけるインターンシップから構成し、キャリア志向学習では「新社会人に向けたスタートアップ講座（7 月）」と「キャリアデザイン基礎講座（12 月）」を開催した。スタートアップ講座では 企業の就職情報部から講師を招き、就職活動時のマナー、印象に残る自己PR、内定後の過ごし方等についてワークと講義（2 時間）を行った。キャリアデザイン講座は、1) 起業家の看護師を招き、看護職の可能性 キャリアを活かしかたサービス、価値の提供に関するワークと講義（2 時間）、2) 製薬会社の人事部マネージャーから治験コーディネーターの役割について講義を受けた（1 時間）。

評価方法：講座の終了後に自記式質問紙によるアンケートを実施した。内容は、有効性、今後への有益性、満足度、自由記述であった。

倫理的配慮：質問紙は無記名とし、口頭で主旨及び同意しない場合も不利益を被らないことを説明した。

【結果】

参加者はスタートアップ講座 58 名、キャリアデザイン講座 7 名であった。質問紙の回収は各 56 部、7 部であった。スタートアップ講座では約 4 割は講義内容に興味をもち、ほぼ全員が「内容は大変良い〜良い」と回答し、その有効性及び今後への有益性を感じていた。自由記述では、実践的で今後役立つ、社会人としての基本的マナーを学べた等の感想がみられた。希望としては、就職面接時のマナーと一部の学生から早い時期の開催があった。キャリアデザイン講座でも全員が内容は良いと回答しその有効性及び今後への有益性を感じていた。時間は 5 名が長いと感じていた。自由記述では、興味ある分野で他の講義では習わない、内容は実践的で今後役立つ、今後の看護師としての選択肢が広がった等の感想と自由参加ではなく全員参加にした方が良いという意見があった。

【考察】

参加者の反応から各講座の有効性は示されたと思われる。しかし、参加率が 66~8%であることから開催時期の検討に加え、学生のキャリア形成に関する意識の低さの現れとも考えられ、1 年生からの継続的な教育の必要性が示唆された。本報告は文部科学省平成 21 年度助成事業「看護職キャリアシステム構築プラン」の一部である。